●会期:12月23日(水)～2027年1月4日(月)

奥谷 太一 展 ― 空(くう) ―〈洋画〉



「深層の洞察」181.8×227.3㎝(150号F)キャンバス・油彩

先生は1980年神奈川県に生まれ、2007年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻(油画)を修了され、その後は2009年第77回独立展独立賞を受賞。2010年には独立展会員に推挙され、その後2012年9月より文化庁新進芸術家海外研修制度によりフランスに約1年間滞在。現在は、独立美術協会会員として、また2020年からは髙島屋で48年続く「既成画壇からの独立・新時代の美術を確立」という独立展の理念をまさに具現化する研究発表の場「十果会」同人として精力的に活躍され、若手実力派の筆頭として注目されています。今展では「空(くう)」と題し、作家が主戦場とする独立展・十果会への出品された大作を中心に、新・近作の中・小品に至るまでを一堂に展観いたします。

■奥谷 太一先生によるギャラリートーク ●12月26日(土)午後2時から
※ギャラリートークに関する情報は横浜高島屋ホームページをご確認ください。

●会期:12月23日(水)～2027年1月11日(月・祝)

美術工芸サロン

茶道具初春の会

2027年1月の予告

●会期:1月6日(水)～11日(月・祝)
松﨑 和実 展〈箔画〉／大野 佳典・香織 展〈陶芸〉

●会期:1月13日(水)～18日(月)
佐藤 泰生 展〈洋画〉／林 亜美 展〈陶芸〉

●会期:1月20日(水)～25日(月)
木村 桃山・杉田 眞龍 展〈茶陶〉／山本 真澄 展〈日本画〉

●会期:1月26日(火)～
画廊移設工事のため、休廊いたします。茶道具売場は移設営業いたします。

ART INFORMATION

「美」との出会いを提供して1世紀。暮らしに「アート」をお届けします。

横浜髙島屋美術画廊のご案内

12月

December 2026



「迎翼」181.8×227.3㎝(150号F)キャンバス・油彩

●会期:12月23日(水)～2027年1月4日(月)

奥谷 太一 展 ― 空(くう) ―〈洋画〉

■奥谷 太一先生によるギャラリートーク ●12月26日(土)午後2時から
※ギャラリートークに関する情報は横浜高島屋ホームページをご確認ください。

◎美術画廊は毎週火曜、会場準備のため閉廊、最終日は通常通り営業いたします。

休業日のご案内 横浜高島屋は2027年1月1日(金・祝)・2日(土)は全館休業とさせていただきます。

※都合により営業時間・催し内容が変更になる場合がございます。また、商品の販売中止・販売期間が変更になる場合がございます。

髙島屋の美術
髙島屋各店美術画廊・展覧会のご案内

横浜髙島屋美術画廊のご案内は【公式】横浜髙島屋美術画廊のインスタグラムでもご覧いただけます。

Takashimaya YOKOHAMA

●会期：12月2日（水）～7日（月）

山内 滋夫 展〈洋画〉



1947年大阪に生まれ、祖父・里見勝蔵氏に師事。日本の伝統的な装飾性と西洋の理知的な造形思考、そして東洋の美意識の融合を画面の中に構成させた独自の絵画表現は、その大胆にして斬新な表現で高い評価を得ています。1982年より個展を重ね、5年振りの発表となる今展。静物画から風景画までの最新作を一堂に展観いたします。

「芥子と豌豆の静物」53.0×53.0cm（10号S）、キャンバス・油彩

柳下 季器 陶展〈陶芸〉



桑沢デザイン研究所卒業。2002年に三重県伊賀市音羽に神田窯を開窯し、現在は個展にて精力的に作品を発表。土物の力強い作品を発表する一方で、茶陶作品にも力を入れています。「わびさびの美」を追求しながらも、存在感を増す作品を制作すべくさらなる土と釉薬の研究を続けられています。

「今焼黒茶盌」11.3×10.2×高さ9cm

●会期：12月9日（水）～14日（月）

灰原 愛 展 ― 空と花と人と ―〈彫刻〉

1981年岡山県生まれ。2006年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。在学中より木彫を中心に制作。人物・動物・植物など生命をテーマにした木彫作品を発表。国内のみならず台湾など海外でも発表し近年注目度の高い若手彫刻家として人気を集めています。樟（クスノキ）などを用いた木彫に彩色を施し、子どもの仕草、動物との距離感、季節の空気、一瞬の感情を表現し、その細やかで柔らかな目線や表情の余韻が多くのコレクターからも支持されています。4年ぶりとなる今展では「空と花と人と」と題し、近・新作を中心に20余点で展観いたします。

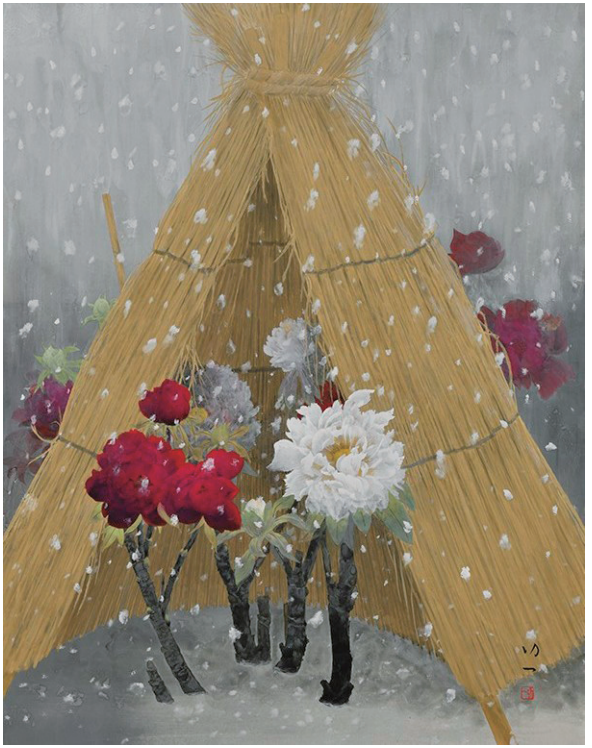


「自然とともに」100×94×高さ58cm
樟、檜、アクリル絵具、色鉛筆

●会期：12月16日（水）～21日（月）

那波多目 功一 展

散華 ― 花を描き、生命を謳う ―〈日本画〉



「雪中寒牡丹」116.7×90.3cm（50号F）紙本彩色

那波多目功一先生は、本個展開催前の7月、惜しくも92歳で急逝されました。ご生前より企画・準備されていた本展は先生最後の新作個展となり、遺作展となります。

先生は1933年茨城県出身。1950年、17歳の若さで再興第35回院展に初入選されます。以降、院展を主な舞台に発表を続け、2002年に日本藝術院会員に任命。2006年より日本美術院理事、2016年より10年間日本美術院代表理事の重責を担い、2024年、令和6年度文化功労者として顕彰されます。そして本年、任期満了により日本美術院代表理事を退任され、最高顧問となられました。先生は日本美術院のみならず、現代日本画壇、日本美術界を牽引する大きな存在でもありました。昭和―平成―令和と、花を見つめ、いのちを描いた日本画家・那波多目功一先生の画品溢れる新作の数々。実直で優しさに満ちたご生前の先生を偲びながらご高覧ください。

美術工芸サロン

古谷 宣幸 展

― 天目の続き ―〈陶芸〉